
第5回会員総会シンポジウム 生物物理学の根本問題 #1：生物の物理的境界

オーガナイザー：日本生物物理学会 理事会
日時：9月16日（日）12:35～13:55（会員総会中）
会場：B会場（一般教育棟 A21）
司会：林重彦

概要：今回の総会シンポジウムより、「生物物理学の根本問題」と銘打ったシンポジウムを開催することになった。本シンポジウムでは、生物物理学が中心的役割を果たす過去から未来にわたる学術的問題を俯瞰し議論することを目的とする。

第一回目は「生物の物理的境界」と題し、生物を単なるモノから分けているものは何であるかを問う。生体活動では、ミクロなモノである機能性分子が細胞空間という物質的反応場で協奏し、時々刻々と変化する多様な時空間長距離秩序が生み出されている。このような生物体の分子システムとしての物理的秩序化は、遺伝子改変に基づく合成生物学や網羅的アプローチが与える情報システムとしての生物体の観点のみからでは理解できない。そこで、本シンポジウムでは、それを相補する「生物体を生物たらしめている物理的・物質的側面」を議論し、生物の理解に対する新しい視座を見定める。

講演者・プログラム

1. 問題提起：宮田 真人（大阪市立大学）
2. 関連分野研究者による話題提供：宮崎 牧人（京都大学）、杉田 有治（理化学研究所）
3. パネルディスカッション